

## 女子校について考える

～同窓会「中高部会」発足～

2023・10・10 重枝 一郎

初めに言っておきたい。男性であり、共学しか知らない私が言うことなど誰も耳を貸さないのではと思ってしまう。でも、縁あって女子校の校長になった。そして本校に来てからは、女子校についての存在意義をずっと考えながら生きている。

女子校は、私たち教師も生徒も誰に遠慮することなく「女子」の「女性」の教育と発達に関心やエネルギーを集中させることができる環境である。だから、目の前にいる女子にふさわしい形で教育を進め、目の前にいる女性が最大限その能力を伸ばせるよう全力を尽くすことができる。これは当然のことながら大前提の環境的要因と言える。

一方、共学制の学校だと歴史的に男子の教育のために構築された学問体系や指導法をそのまま女子も受けるようにしたものが一般的と言われる。昔から女性は男性によって作り出された学問や勉強の中に自らを合わせるようにしてきたことが多いと言われていいる。いわゆる男子のカリキュラムである。もちろん文科省の学習指導要領に性差などない。だが、私自身共学、女子校と両方経験してみて感じたことがある。それは、本校は女子のカリキュラムということである。あくまで感じたことであって、うまく言語化できるわけではない。

ある研究者は、男性が構築した判断基準に照らして、女性が劣るように思われたり、能力を開発することをあまり期待されなかったりする傾向が、男女共にいる場では往々にしてあるという。学校でも男子生徒に能力開発の機会や発言の場を譲ったり、自立すべき時に依存したりする傾向はいまだにあると言う。

私は本校に赴任した時、PR リーダーに当然なっていかななくてはならないと思った。何人かの先生に「女子校の良さを教えてください」と聞いたことがある。その時言われたのが「女子校では全学的な行事から日々の小さな活動まで、女子がすべて取り仕切るのので、共学の女子よりも表現力・企画力・組織力・リーダーシップ等を身に付ける機会が十分整っている」であった。確かにそういう現実には日々実感できる。だから私も堂々とそのことをPRの一つとして発信している。

ジェンダー・バイアスのかからない自由で穏やかな雰囲気の中で、自分に素直な認識方法や興味関心が肯定的に捉えられ育成されていくことは、女性特有の能力だけでなく、男女が共有している能力も十分開花させ自己確立を促す。それが女子校の教育環境の好ましさだと考える。

ある脳科学の研究では、女子が特性上男子より優れていたり、劣っていたりする領域があるらしい。女子が優位な能力には、記憶学習、言語能力、地道な努力、感性の鋭さ、複数のことを同時にすすめる能力があると言われる。また、劣っている領域では、共学校より女子校の生徒が高位の成績を獲得したという研究結果もあると言う。

つまり女子の特性を踏まえた教育実践をすることは、女子校の存在意義につながると思う。今、「ジェンダーフリー＝共学化」という流れがある。私は、「ジェンダーフリー＝共学化」だとは思っていない。女性の特徴・特性・能力全体を開花させる上で、「女子」に焦点を当てて育て上げるための適切な環境づくりをこれからも意識しながら学校運営をしていきたい。

そもそも本校は、女子による女子のための学校としてスタートしている。これは「女子のカリキュラムの学校」としてスタートしているということ。当時のことは、想像してみることはできないが、「勇気のいるチャレンジ」には違いない。そのDNAは学校風土としてずっと引き継がなくてはならない。変えてはならないものは「スピリット」

であり、変えなくてはならないものは「やり方」である。初代校長ギール先生が「本校は女性が新しい生き方を見つけられる学校」と定義づけている。これは今も、そしてこれから生き続ける。

余談だが、この話は、Sense of Mission 9月号でも書いた。そして9月16日の中高の後援会の集まりでも話した（約70名）。この中高部会に参加した保護者に「女子校の人？ 共学の人？」と質問してみた。本校は女子校出身の保護者が半分以上だった（びっくり!）。実は、女子校のよさを多くの保護者はわかっている。私は、この話をしたらどう思われるのかという心配もしていた。でも女子校のよさを少しでも伝えられたらという気持ちで話した。スピーチの後、保護者から拍手をいただいた。よかった。

### 同窓会中高部会発足

秋のオープンスクール（昨年よりも参加者増・お疲れさまでした）の後、中高への直接的な支援ができるということで、野田同窓会長が新しく「中高部会」を発足しました。その役員になられた方々（朝の礼拝でお世話になっている坂元様が会長・他4名）と懇談しました。学校側は私と副校長、教頭の3名が参加しました。1時間半の懇談で、有意義な話（私が思っていることを話せたという意味かな・笑）ができました。

- ◆ 卒業生は自分の時代はよかったと言う。  
しかし、どの時代であれ、今の生徒たちも同じように充実した学校生活を送っている。そして同じように素敵な学生時代の思い出をつくる。自分の時代と違っていても、今の生徒たちを応援するのが同窓会である。
- ◆ 「教師の元気がない・成長しない学校は、生徒も元気がない・成長しない。」だから、先生たちを応援することを忘れてはいけない。
- ◆ 生存戦略ばかり言われることが多く、その場合働く意欲が低下していく。生存戦略だけでなく、成長戦略を話していかなくてはならない。その場合、社会が変化しているのだから教育も変化する。ただ、変えてはならないものがある。それは、「スピリット」であり、つまり本校建学の精神になる。
- ◆ 同窓会は、いい噂だけを発信していくことが大切。学校は評判産業なのだから。ただ、このような部会において、様々な意見交流はしなければならない。
- ◆ 先生方の生徒に対する寄り添い支援する姿は、昔から変わらず素晴らしい。このことが本校の強みでもある。
- ◆ 先生方と思いを共有するために、中高同窓会のお便りのようなものを作りたい。何かの時はご協力よろしくお願いします。
- ◆ 今号の「女子校について」は、ぜひ教職員全体で共有してほしい（会長より）。先生方よろしく。

